

記念講演 II

ESG経営に大きく舵を切る

澤田 道隆

花王株式会社
代表取締役社長 執行役員

目

1. ESG経営に大きく舵を切る三つの理由
2. 特徴あるESG活動とESG戦略実行の決意
3. プラスチック循環社会に向けて

次

4. きれいを社会に
5. 花王らしいESG活動（Kirei Action）の推進
6. コロナショックの本質

1. ESG経営に大きく舵を切る三つの理由

本日は、花王グループが全力を挙げて取り組んでいるESG経営についてお話する。まず、なぜ、「ESG経営に大きく舵を切る」と考えたのか、その理由は三つある。

一つ目は、ESGは当社の原点、道しるべである企業理念を具体化するものと理解をしているからである。大切な企業理念のど真ん中を体現すればESGに結びつくということで、「ESG経営に大きく舵を切る」ことが重要と考えた。

二つ目は、Eは環境課題、Sは社会課題だが、「CSR」や「サステナビリティ」ではなくESGを重視するのは、Gの部分が重要だと考えたからである。これまでも、当社は地球環境問題、社会的課題に取り組んできた。しかし、やっていることが独りよがり、自己満足になってしまっただけで、決して素晴らしいEやSへの対応にはならない。第三者の目でしっかりとみていただくことが大切で、Gが非常に重要であると考えたからである。



三つ目は、当社はもの作りの会社なので、技術革新を伴ってイノベーション、社会的変革を進めることを重視している。しかし、産業の歴史を振り返ると、技術革新やイノベーションが、逆に大きな社会問題を起こしているのではないかとこの問題意識を持っている。例えば、プラスチックは軽くて強く、いろいろな形にできて、かつ安いので、社会を大きく変えてきた。しかし、様々なプラスチック製品が世の中にあふれる中で、プラスチックごみが大きな社会問題になってきている。また、石油化学の発展は、CO₂による気候